

報告事項ク

放課後子どもプラン実施状況に係るアンケート結果について

放課後子どもプラン実施状況に係るアンケート結果について、別紙のとおり報告します。

平成23年4月14日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

放課後子どもプラン実施状況に係るアンケート結果について

目 的	「鳥取県放課後子どもプラン実施方針」策定後の放課後子ども教室並びに放課後児童クラブの取組状況や課題について把握し、今後の施策参考資料とする。
調査対象	放課後子ども教室（11市町34教室） 放課後児童クラブ（16市町村126クラブ）
調査期間	平成22年11月10日～30日
回 答 数	放課後子ども教室21教室（回収率62%） 放課後児童クラブ87クラブ（回収率69%）
調査結果	全市町村教育委員会学校教育及び社会教育担当課、放課後子ども教室、放課後児童クラブ、小学校に送付

問1 保護者も参加・参画する取組をしていますか。

《している》 (教室) 62% (クラブ) 53%
《していない》 (教室) 38% (クラブ) 47%

半数以上の教室（62%）、クラブ（53%）が、保護者が参加・参画する取組を行っている。

内容としては、教室の場合は、親子での体験活動や季節の行事に参加するといったことが多く、クラブの場合は、発表会やレクリエーションに参加するといったことが多い。

クラブでは、保護者が参加することにより、保護者同士のつながりができ、課題解決に向けて連携して取り組むことができるという成果がある。

一方で、保護者が参加・参画する取組をしていないという教室（38%）、クラブ（47%）も多い。

参加する保護者が決まっていって少ない。

クラブの場合は、人的余裕、財政的余裕がないことから、保護者を交えた行事は難しいという意見もある。

【課 題】

保護者が任せきりにならないよう、保護者が参加・参画する取組を増やし、子どもの様子を知ってもらったり、保護者同士のつながりを深めてもらうことにより、課題解決に共に取り組む体制を整えることが必要である。

問2 - 1 地域の方にボランティアとして参加・参画してもらおう取組や地域の大人との世代間交流（中高生、高齢者等）を進める取組、地域の特色（自然・文化・歴史）を活かした取組などを行っていますか。

《している》 (教室) 71% (クラブ) 53%
《していない》 (教室) 29% (クラブ) 46%

地域のボランティアに協力していただき、各地域で様々な取組が行われている。

地域のボランティアに参加してもらっていない教室が29%ある。

地域のボランティアが高齢化する一方、新しい世代のボランティアの発掘が難しい。

問2 - 2 地域の方にボランティアとして参加してもらおう取組は必要だと思いますか。
(クラブのみ回答)

《現在、積極的に進めている》	20%
《必要だと思うが、人材を捜すのが難しい》	56%
《地域の方に関わってもらうのは抵抗がある》	1%
《その他》	17%

7割以上のクラブが、現在、積極的に進めているか、地域の方のボランティアを求めている。

必要と思うが、人材を捜すのが難しいとするクラブが56%もある。

指導員の勤務地と居住地が違う場合、地域とのかかわりが少ないためどのようにして、ボランティアを探せばよいのかわからない、どこに依頼すればよいのかわからない、といった悩みがある。

【課題】

「地域のボランティアの参加が必要だと思うが、人材を捜すのが難しい」という意見が半数を超えるので、地域人材のコーディネーターの役割を果たす公民館との連携を密にしたり、「学校支援地域本部事業」や、今年度から実施予定の「学校支援ボランティア事業」の活用も視野に入れることが必要である。

問3 保護者や学校、ボランティア等関係者同士が共通認識・意見交換する場を設けていますか。

《設けている》	(教室) 40%	(クラブ) 57%
《設けていない》	(教室) 55%	(クラブ) 43%

半数近くの教室とクラブが、保護者会や運営委員会を開催している。

日程調整が難しく、なかなか保護者に集まってもらう場を設けることができない。学校と意見交換する場を設けるきっかけがないという意見もある。

【課題】

住民のニーズをつかみながら地域の実情に応じた望ましい活動とするためにも、教室、クラブ、保護者、学校、ボランティア等関係者同士がもっと話し合い、一緒にやっていくことが必要である。

問4 子ども教室や児童クラブの様子を学校・家庭・地域に伝えていますか。

《伝えている》	(教室) 76%	(クラブ) 93%
《伝えていない》	(教室) 14%	(クラブ) 5%

教室(76%)、クラブ(93%)とも、学校・家庭・地域に伝えている。

チラシや広報誌を保護者、学校、地域に配布している。

クラブの場合、日誌で学校に伝えたり、保護者会や個人面談を行っている例もある。

問5 - 1 放課後児童クラブや放課後子ども教室の運営方針として、子どもたちの学習支援をしていますか。

《宿題や予習復習をするよう声かけしている》	(教室) 39%	(クラブ) 58%
《指導員や学習アドバイザーが子どもたちがわからないところを教えている》	(教室) 26%	(クラブ) 32%
《地域のボランティア等が学習を支援している》	(教室) 3%	(クラブ) 2%
《学習の時間は特に設定していない》	(教室) 13%	(クラブ) 8%

クラブの9割が、なんらかの放課後の学習支援を行っている。
地域のボランティア等が学習を支援しているケースは少ない。

問5 - 2 放課後の学習支援は必要だと思いますか。

《必要である》	(教室) 53%	(クラブ) 66%
《必要ない》	(教室) 14%	(クラブ) 25%
《無回答》	(教室) 33%	(クラブ) 9%

教室もクラブも半数以上が放課後の学習支援が必要と感じており、実際にその支援を行っているところも多い。

保護者の多くが自宅に子どもが帰ってから宿題をみることは困難であり、宿題をして帰ってほしいと要望している。

教室もクラブも児童の生活実態や学力実態から、放課後の学習習慣を定着させるために学習支援が必要と考えているところが多い。

クラブは学習を支援する場ではないという意見や、保護者の役割を奪うのではないかという意見もある。

【課題】

放課後児童クラブは、学習を支援する場でないという意見がある一方、宿題はクラブ等で行い、学習習慣を定着させてほしいという保護者の要望も多いので、学習支援のあり方や役割分担を指導員、保護者、学校、地域等で話し合う必要がある。

問6 その他、悩みや課題、今後必要だと思われることがありますか。

小学校の子どもが来ているのだから、小学校も積極的に関わってほしい。先生に立ち寄ってもらい、様子を見てもらえたらうれしい。

子どもたちがなかなかルールを守ってくれず、困っている。話を聞かない子への対応方法など学校の指導方法が知りたい。

発達障がいなど、支援が必要な児童に対して、専門的な知識のない指導員が対応することについて不安を感じる。

学校から宿題等の個別指導を求められるが、来る児童が多いため、特定の児童にかかりきりになることができない。

【課題】

子どもの対応について困り感を感じている指導員が多く、学校との連携や協力を要望する意見が多い。学校の理解を進めるとともに、窓口となる教職員の配置が望まれる。また、特別な支援を要する児童の対応等、指導方法について、学校と共通理解をすることが望まれる。